

6 大学と地方銀行が連携した地元目線の人材育成 地方銀行員の講義で地域の将来を担う人材を育てる

静岡県・静岡市 | 清水銀行

地域の将来を担う人材を育成する。口にするのは簡単だが、そこには地道かつ長期的な取り組みが求められる。地元大学と地方銀行が連携して、地域の人に寄り添い、一緒になって地域を盛り上げる人材の育成を目指す。地方創生の源泉である人を育てるため、地方銀行の行員が教壇に立つ。



静岡市の概要

- 【人口】692,042人(2019年7月1日現在)
- ・温暖な気候に恵まれ、山から市街地、そして海へと広がりをもちた景観が本市の特徴で、3,000メートル級の山々からなる南アルプスや、駿河湾に面した三保の松原に代表される自然海浜などが多様な景観を形成している。
 - ・古くから、今川氏や大御所時代の徳川家康公の城下町として、独自の文化や産業を育み、日本の中枢都市として発展を続けてきた。特に、「お茶」や「桜えび」、「プラスチックモデル」などの多様な産業や、国際貿易の拠点である清水港での貿易が経済において重要な役割を担っている。
 - ・毎年11月初旬に開催されている「大道芸ワールドカップin静岡」は、国内外から一流のアーティストが参加し、パフォーマンスを披露。開催期間には約150万人が訪れ、本市の新たな文化として根づいてきている。



静岡県立大学 草薙キャンパス

地方銀行の行員が教壇に立つ講義

静岡県立大学・経営情報学部の学生の大半が受講する「地域金融論」。この日、教壇に立つのは清水銀行の4人の若手行員。「地元企業を支える銀行の業務は多角化していて、資金面の支援だけでなく、企業の課題を解決するソリューション提供が必要」と学生に丁寧にレクチャー。

それぞれの経験をもとに「企業のお客様と信頼関係を構築するには、その業界を詳しく知らないといけない」と熱弁をふるう。

2018年度の講義は、「銀行の仕事と役割」、「決算書の見方と企業

一足先に地域社会を覗き見る

静岡県立大学の森准教授に「地域金融論」の趣旨を尋ねた。「地方銀行が地域経済の重要なインフラとしての役割を担っていることを学生に理解してほしい。研究者は理論を教えるが、その理論が実際にどのように役立っているかを学んでほしい」と狙いを語る。



「地域金融論」を担当する森准教授

以前、この講義を担当するのは監査法人だったが、2005年、森准教授は地域社会の実情を踏まえた講義にしたいとの思いから、「清水銀行で講義を担当しませんか」と打診。当時、人事・企画部門担当であった豊島常務（現頭取）が、「やらせてい

ていただきます」と即答。同年から講義を担当することとなった。地元のあらゆる業種と接点のある地方銀行を通じ、社会に出る一足先に地域社会を覗き見ることができる本講義は、学生の関心も高い。これまでの14年間で履修登録者は述べ1,000名を超える。最終講義にはこれまで頭取が3回登壇するなど、同行の並々ならぬ決意が伝わってくる。

「地域あつての清水銀行という思いから、地域で人を育てる観点で講義してくれる。静岡県立大学としても、地域の大学として相応しい人材を育てることで地域に貢献できる」（森准教授）



清水銀行役井支店の菅原氏

講義を通じて「地元」を再認識

学生にとって、地域で日々奮闘する地方銀行員からの説明は、新たな気づきが得られる貴重な機会となっているようだ。講義後に毎回提出する出席カードには、「静岡県に素敵な企業がたくさんあるこ



清水銀行沼津北支店の福村氏

人材育成でかなえる地方創生



「地域金融論」受講生の笹本さん

学生や講師を務めた行員は口々に「地域の人に寄り添い、一緒に地域を盛り上げる」といった想いを語る。地方創生への貢献—この講義は、漠然と抱えている想いに対し、自身の進むべき方向をおぼろげながら形作る場なのかもしれない。ある学生は、「今後の人生設計を考える講義」と表現する。

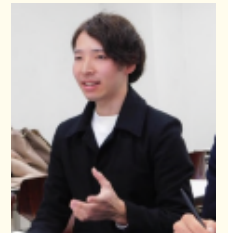
この講義を履修した学生の多くは、地域を支える様々な業種の地元企業に就職するだろう。中には、地方銀行に就職する学生もいるだろうし、将来は起業したいと語る学生

とに気付かされた。もう一度、地元の様々な企業の事を知りたいと思った、「豊富な地元の観光資源を活かしていいのではないかと考えさせられた」など、「地元」を再認識したとのコメントが並ぶ。

この日の講師を務めた4人の行員は、静岡県立大学の卒業生で、在学中にこの講義を履修していた。「講義を通じて、地方銀行が法人・個人のお客様に幅広い情報・サービスを提供することで、地域活性化に貢献していることを学んだ。銀行の果たす役割を学生時代に知ることができて、今でも役立っていることが多くある」。そう語る福村さん（取材当時入行4年目）は、担当している食品関連企業と同大学の食品栄養学部の教授とをマッチングにつなげた経験があるという。「地元企業と大学・地方自治体との連携を促すことで、お客様はもとより、地域全体の発展につなげたい」

もいる。各地で地方創生を考える際、「将来を担う人材が不足している」といった声を聞くことも少なくない。

森准教授は、「地域で人を育てることが地域貢献であり、それぞれが適切な役割を果たせば地方創生はかなうと思う」と語る。地元大学と地方銀行が手を携えた人材育成。履修者の意欲的な眼差しを見ると、人を育てることが、地方創生の源泉であることを実感する。

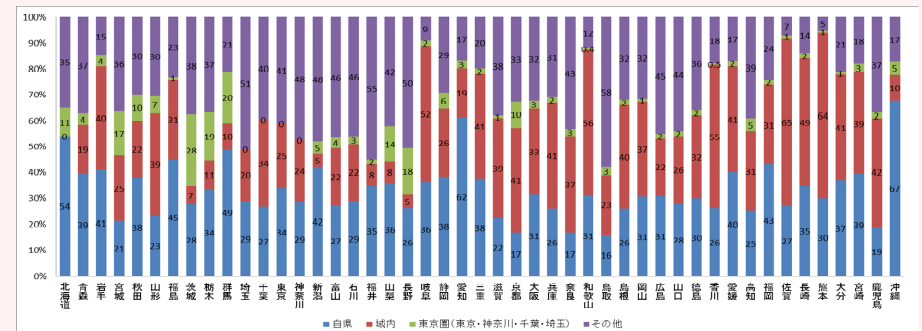


「地域金融論」受講生の四ノ宮さん

Data

国立大学入学者の出身地域割合（大学所在地別別）

国立大学入学者の出身高校の地域を比較すると、北海道・東北・東海・沖縄は自県出身者の割合が高い傾向、東京圏・北陸・甲信越はその他地域からの出身者割合が高い傾向、近畿・九州では地域ブロック内出身者の割合が高い傾向にあります。



※地域区分：北海道、東北、関東（東京圏除く）、東京圏、甲信越、北陸、東海、近畿、中国四国、九州

出典：文部科学省「学校基本統計（平成28年度）」